

# 山の神神社のブナ林 (やまのかみじんじやのぶなばやし)

新庄市大字金沢字関屋

全国的植生区分で新庄は、冷温帯林の広葉樹林帯に含まれ、太古の昔は、ブナ、コナラ、ミズナラなどが現在の平野部までをおおっており、その間に天然スギがそびえていました。

原始の林相は、後世の開拓によって、まず平野部で消え失せ、やがて山地・原野へのスギ植林などで姿を変えられ、今日の姿になったといわれています。

この山の神神社境内のブナは、新庄盆地が開拓される以前のブナを中心とする原生林の一部が残った非常に貴重なもので、昭和52年4月1日に市指定天然記念物に指定されています。  
〔山形県森林協会〕

(案内略図)



【森林やまがた85号(2004年4月)記載】

